

細見コレクション名品選

# 麗しき日本の美 —めでたし、愛でたし—

平成26年12月20日(土)～平成27年2月22日(日)

細見美術館

細見コレクション名品選

# 麗しき日本の美

## —めでたし、愛でたし—

平成26年12月20日(土)～平成27年2月22日(日)

様々な時代や分野を網羅する作品で構成されている細見コレクション。

細見美術館では開館以来、収蔵品を中心に企画展を催し、日本美術の魅力を紹介してきました。

「麗しき日本の美」展は、多彩なコレクションから毎回テーマを設けて開催しているシリーズであり、本展で4回目を迎えます。

今回はこの時期にふさわしく、新春を寿ぐ作品や吉祥を示す絵画・工芸品を紹介します。

めでたいには「愛でたい」という意味もあります。一日見ただけで、思わず微笑んでしまうもの、可愛らしいものも併せて展観します。

見る者的心を和ませ、晴れやかにする日本の美をこの機会に是非お楽しみください。

細見美術館

## 主な出品作品



土佐光吉 源氏物語図色紙「初音」 江戸初期  
土佐光吉(1539～1613)

「初音」の帖、36歳の源氏が新春に六条院の女性たちを廻り、最後に明石の君を訪れた場面。

草子や琴が置かれている様子をみて、明石の君の教養の高さを好ましく思う源氏の姿が描かれている。

画面全体に細長い金雲や梅の花が配された、華やかな雰囲気が漂っている。

鈴木其一 歳首の図 江戸後期 鈴木其一(1796～1858)

初春を寿ぐ輪飾りのもと、清々しい新年の空に飛来する鶯を描く。本来、裂【きれ】で表具される部分も、旭日、紅白梅、松葉といった吉祥模様が描かれた描表装となっている。

新年を飾るにふさわしい、華やかな作品。



桐竹鳳凰図屏風 桃山時代



根来亀甲文瓶子 室町時代

亀甲文は正六角形を連続して組み合わせる抽象的な幾何学文様で、長寿吉祥を祝う柄である。この亀甲文を持つこの瓶子は、本来酒を供えるための瓶子で、一対として使われたものの一つと思われる。

細く引き締まった注ぎ口、ふくよかな曲線を描く胴と、抑揚をつけた大胆な形だが、調和に満ちたその姿は根来の洗練された美を象徴している。



蛤形蒔繪硯箱 江戸前期

「夫婦和合」の象徴とされる蛤を三つ並べ合わせた形の硯箱。

貝のふぐらみを再現した蓋には、「梅と鶯」「海松(みる)」「雲形」をそれぞれに配している。

小ぶりな硯箱にもかかわらず、様々な画題を楽しめる華やかな作品に仕上がっている。



中村芳中『光琳画譜』より「恵比寿大黒にお福」 江戸後期



中村芳中『光琳画譜』より「高砂図」 江戸後期

### 中村芳中『光琳画譜』 享和二年

中村芳中( ? ~ 1819)

江戸後期に大坂を中心に活躍した中村芳中が江戸で刊行した『光琳画譜』は、芳中が慕った尾形光琳の名を冠した版本。光琳を想起させる草花や、ほのぼのとした子犬や亀などの動物、竹林七賢、六歌仙といった人物など全二十五図が収まる。緩やかな描線、ユーモラスな表情など、芳中らしい大らかな作風が楽しめる。

### 神坂雪佳 白鳳図 昭和元年

神坂雪佳(1866~1942)

京に生まれ、琳派を手本として絵画・工芸両面にわたり活躍した神坂雪佳。この作品は、昭和天皇即位の大礼に際して制作された。

徳高い天子を象徴する瑞鳥に菊花が添えられている。

## 基本情報・お問合せ



細見コレクション名品選

### 麗しき日本の美 —めでたし、愛でたし—

平成26年12月20日(土)～平成27年2月22日(日)

開館時間 午前10時～午後6時(入館は5時30分前まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)

年末年始 2014年12月27日(土)～2015年1月2日(金)

入館料 一般1,100円(1,000円) 学生800円(700円) ※()内は20名以上の団体料金

会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

TEL075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>

#### お問合せ先

広報担当 三宅 由紀

TEL/ 075-752-5555 FAX/ 075-752-5955

E-MAIL/ [press@emuseum.or.jp](mailto:press@emuseum.or.jp)



伊藤若冲 鼠婚礼図(部分)

伊藤若冲 鼠婚礼図

寛政八年

伊藤若冲 (1716～1800)

婚礼の準備をしている鼠たちのところへ、画面右下からやってくる二匹の鼠。もう酔いが回ったのか、盃を持って尻尾を引っ張られる鼠はどこか楽しげ。

余白を残した空間構成によって小さな鼠の可愛らしさをも暗示するなど絶妙な構図となっている。